

# ほん屋

20号 2019(平成31)年2月

店主：学生図書委員1年

(玉城・當山・新里・与儀)

※この発刊紙は、学生が作るニュース(図書館発行)です。  
“ほん屋”of the students, by the students, for the students.

本を返し忘れていませんか？

春休みも近づいてきました。

早めの返却をお願いします！

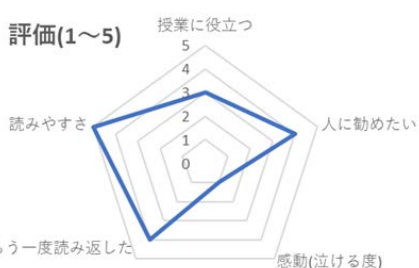
## 職業としての地下アイドル

著・姫乃たま

職業としての地下アイドル

姫乃たま

Himeno Tamama

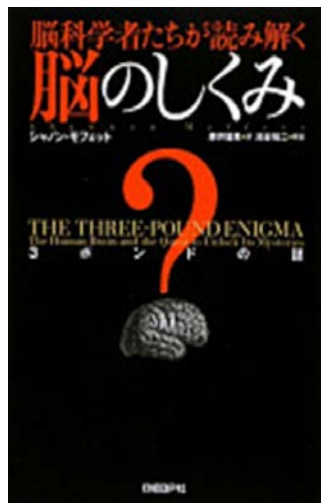


### 【総合科学科 崎原正志先生】

私がこの本を手にとったのは、社会における多様な人々に興味があるから。

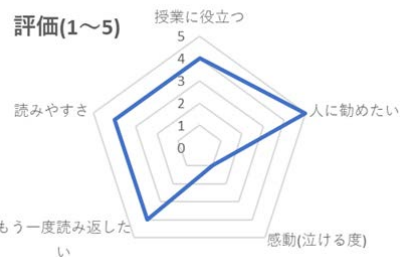
学生時代、壮絶な「いじめ」を経た筆者が「地下アイドル」という職業を選ぶことになったその経緯が興味深い。この本は単なる「アイドル」について書いた本というより、社会の中にうずまく様々な現象を映し出していて、社会学的な読み方も可能だ。

白血病を経験し、難聴になり、その他ここでは言えない数々の経験を通して、私は、今苦しんでいるあなたにもこの本を読んでほしい。



## 脳科学者たちが読み解く 脳のしくみ

著・Shannon Moffett



### 【生物資源工学科1年 中村仁俊】

脳について興味があったためこの本を読んだ。

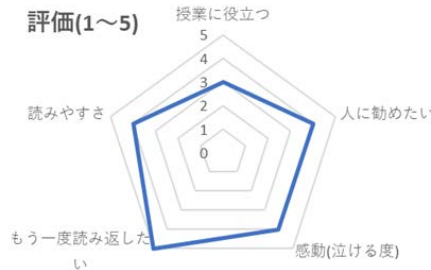
短編で色々な人の経験談などを語っているが、特にグリックさんの話はとてもありリアルだった。病院内で週に80~130時間勤務している彼女にしかできない体験が数多く書かれていて、興味を持つことが出来た。

人の脳の症状や構造を把握している人だからこそ考えられることや対処の仕方などを多く知った。この本のおかげで今まで知らなかったことや、あまり聞けないような人たちの経験を知ることができ、とても満足できた。



## ヒア・カムズ・ザ・サン

著・有川浩



### 【情報通信システム工学科4年 上原一郎】

「図書館戦争」の作者でもある有川浩先生が手掛けた作品。

編集者である主人公は手に触れたモノに残る記憶が見えてしまう。ある日、同僚の父親がアメリカから20年ぶりに帰国するといっていた。彼はハリウッドで映画の仕事を手掛けているというが主人公の目には全く違う景色が見えていた。それを知った主人公が様々な行動を起こしていく。

この内容と少し違った話の「ヒア・カムズ・ザ・サンParallel」という作品もおすすめ。